

## ―――――― 目 次――――――

はじめに	1
第1章 LDってなんだろう	2
1. LDってどんな子ども？	
2. LDは個性？それとも障害？	
3. なぜLDになるの？	
4. LDは治るの？	
5. LDは知的障害や自閉症とはどこがちがうの？	
6. LDにはどんなタイプがあるの？	
7. わが国におけるLDへの取り組みについて	
第2章 家庭での取り組み	10
1. 親としての考え方と配慮の仕方	
2. 幼児期の取組み	
3. 児童期の取組み	
4. 思春期の取組み	
第3章 学校での対応	18
1. LD児への教育的対応	
2. 指導上の配慮事項	
3. 指導の基本と実際	
4. 保護者と学校・教師との協力について	
資料編 LDかなと思ったら	26
1. LD親の会とは？	26
2. 全国各地の親の会と連絡先	27
3. 各地の診断・相談・療育機関	30
4. 各地の特殊教育センター	36
5. 参考図書	38
6. LD関係の主なウェブサイト	40

## はじめに

学習面で独特のつまづきを持つ学習障害（LD）の子ども達。また、落ち着きがなかったり、集団行動が苦手だったり、動作がぎこちなかったりという特性を併せ持つことがあります。

こうした子ども達は、困難の度合いが軽度で見えにくいこともあります、「なぜ、できないの」親も随分とまどい、悩んだりします。一方で、子ども自身もとまどい苦しんでおり、家庭・学校・地域等での周囲の理解や適切な対応・援助を待っているのです。

LDの子ども達は、苦手な部分やアンバランスな面を持っていますが、個々の特性に合わせた配慮や適切な対応により、ある程度克服したり、他の能力でカバーすることができます。しかし対応が不適切な場合、徐々に自信をなくしたり情緒面や行動面で二次的な問題を引き起こしてしまうケースが残念ながらあるのです。

LDについては教育分野での対応が本格化しつつあり、診断・相談機関等も増え、書籍や情報も多く見られるようになってきています。一方、各地のLD親の会には「うちの子はLD？」「LDについて知りたい」といった問い合わせが数多く寄せられています。

この小冊子は、より多くの保護者や教育関係者の方にLDについての基本的な知識を理解していただくことを目的として企画し、社会福祉・医療事業団（子育て支援基金）の助成金を受けて作成したものです。

執筆については、日本LD学会やLD教育の第一線で活躍されている3名の先生にお願いをしました。資料編には各地の親の会から収集した情報を掲載しました。

最後に、この小冊子がLDの子ども達の健やかな成長の一助となることを願っています。

## 第1章 LDってなんだろう

### 1. LDってどんな子ども？

LD（学習障害）と呼ばれる子どもたちによく見られる状態を親の目から見てみましょう。

はっきり知能が遅れているとか、なにか障害があるとは思えない、でもなんでもないかというと、なにか、どこか、その育ちかたや勉強面、行動面で気になるところがあるというのが共通した印象でしょう。

LDにはさまざまなタイプがあります。ですからLDがみんな同じ特徴を示すわけではありません。よく報告されるのは次のような特徴です。

#### 【ことばや勉強に関する特徴】

- ことばの発達が遅れ気味で気になった
- ことばの使い方や文字の習得に遅れやつまづきがみられる（自分勝手なおしゃべりやまとまらない話し方が多かったり、話すことには比べやさしい読み書きにつまづきがある）
- 聴いたり、見たり、さわったりといったことに、こだわりや敏感さがある。（大きな音や特定の音を怖がる、同じものを飽きずに見たがる、触られることや特定の衣類の感触をいやがる）
- 理解にムラがある（やさしい指示がわからなかったり、興味を持っているとかなりよくわかるのに、集団の中では理解しにくい）
- 変な字を書いたり、いつまでも幼い絵を描いたり、図などの理解が弱い（左右逆の字を書いたり、漢字の誤りや覚えが悪かったり、絵や図を苦手とする）
- 記憶はいいのに、すじ道を立てて考えることが不得意（九九や計算はできるのに、文章題になるとよく間違える）

### 【行動に関する特徴】

- 手先の不器用さや運動が苦手
- 場所や位置をまちがえる（道順、机やロッカーの位置など）
- 落ち着きがなくじっとしていることができない
- 自分勝手な行動が多く、なかまからはずれがち
- 集中力にムラがある（好きなことには集中できるのに、気が散りやすい）

一口にいうと、できることとできないこと、できるときとできないときの差が目立つといえるかもしれません。

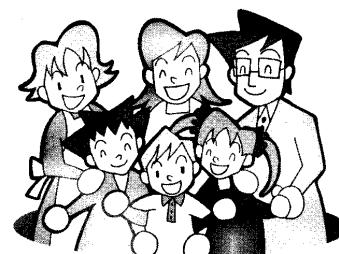
こんな特徴が目立つたら、LDかもしれないといついにその子どもの発達を見ていくことが大切です。育てるなかで配慮すれば子どもにも親にも役立つことがたくさんあります。

親の不安や心配のし過ぎは、かえって子どもによけいなこころの負担をかけることがあります。

まず、子どもの様子をよくみて、親が家庭でできそうなことをやってみる。そしてゆっくりと、まわりで相談できる専門家を見つけていけばよいのです。

親とその家族が理解をして、長い目でその子の成長を見守り支援する。これが基本です。

この冊子にはそうしたヒントがいっぱい書かれています。



### 2. LDは個性？ それとも障害？

よくLDは個性が強いだけで、障害あつかいするのはおかしいのではないかという声を聞きます。

たしかに、できることとできないことがあったり、できかたにムラが多かったり、できるのに時間がかかるだけといったこともあります。こうした特徴は障害と呼ぶ程のことではないと感じるかもしれません。

だれにでも得意、不得意はあるし、苦手なことがないひとはいません。それこそが個性というものではないかというわけです。見方を変えると、LDが示すさまざまな特徴を個性という言葉で済ませられるなら、わざわざLDという必要はないかもしれません。

LDのこうした状態は、親も含めてなかなかわかりにくく、気づきにくいというのが実際のところです。そのため子どもたちは知らず知らずに、的はずれた叱責や、無理な努力を強いられることが多いのです。のためにたくさん不利なことが子どもに背負わされていきます。その結果、親が周囲から責められるといったこともあります。

LDは親のしつけ方や本人の努力不足ではないのです。

なぜLDを障害と呼ぶかといえば、その障害は理解と支援を必要とする個性だからなのです。障害と呼んで差別するではありません。LDという言葉によって、その子どもたちをきちんと理解し、その子どもにあった支援を行うことができます。

LDとの正しいつき合い方を、LDという言葉を使うことで、私たちは初めて理解するともいえます。

### 3. なぜLDになるの？

くわしい原因はわかってはいません。ただ女の子よりも男の子のほう何倍も多いということから、きっとその背景には生物学的な発達の原因があるのではないかといわれています。

一般に、女の子よりも男の子のほうが生まれてくるときに発達の障害をもちやすかったり、育ちにくいといったことがあるようです。

原因是よくわかっていないが、親の小さいときにも似た状態があったということから、子どもにいっそう際だった特徴として引き継がれるといった場合もあります。これは家族集積性と呼ばれます。

また出産時のさまざまなトラブル（たとえば仮死、低出生体重など）が、その後の子どもの発達に何らかの影響を与えたのかもしれません。いずれにしても、そうした影響がことばや行動面の発達的な特徴として、幼児期からみられやすいことがあります。

### 4. LDは治るの？

LDの原因ははっきりしていませんが、その背景にはなんらかの発達的な要因が考えられるわけで、それはひとつの発達的特徴としてその子どもにそなわっているともいえます。

LDの子どもが示すさまざまな特徴やつまづきは、適切な対応や指導によって改善はされていますが、個性そのものを消し去ることはできないように、やはりその子どもの特性として残りやすいと思います。一般的な個性として受けとめられる範囲にまでうまく発達するよう、私たちは支援するのです。

### 5. LDは知的障害や自閉症とはどこがちがうの？

「うちの子どもはLDなのですか、知的障害なのですか」

「自閉症といわれたことがあるのですが、LDなのですか」

こうした質問を発達相談ではよく受けます。LDが発達の障害のひとつだとして、知的障害や自閉症とはどこがちがうのでしょうか。それでは「知識の整理タンス」という考え方で説明しましょう。

わたしたちの頭の中には、ものごとを理解したり、判断したり、考えたり、記憶したりする、いわば情報に関する「知識の整理タンス」があると考えてみてください。

大ぶりのタンスのひともいれば、やや小型のひともいるでしょう。引き出しがたくさんあるひとも、少な目のひともいます。

知的障害は、さまざまな原因によってタンス全体で、引き出しのあちこちが開けにくくなっている状態をいいます。ですからタンス全体の使い勝手（知的な働き）が十分ではないということを、まず理解しなくてはならないのです。



一方、自閉症は、タンスの引き出しのある特定の部分に使いにくさがあります。それはひととの関係を作り上げていくときの情報に関する部分（対人認知能力）と、会話を理解したり、やりとりする部分（言語コミュニケーション能力）の使い勝手が目立って悪く、情報の出し入れに当たっても、柔軟性を欠きがちでこだわりが強い（固執性）といった特徴があります。

こうした明らかな特徴を共通してもらっているのが自閉症で、知能が遅れているものも、遅れていないもの（高機能自閉症と呼ばれる）もいます。

LDは、ほんのいくつかの引き出しがきしみがちで、出し入れがスムーズに行かないという特徴があり、そのために学校での勉強面で不利を被りやすいのです。

これは1999年に文部省が発表したLDの定義です。

LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

LDは、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

## 6. LDにはどんなタイプがあるの？

LDは勉強面につまずきやすさをもっていますが、それは子どもの努力不足ではなく、学びにくさを発達上もっているところに特徴があります。ですから単なる学業不振とは区別されます。

さてLDにはどんなタイプがあるのでしょうか。LDの実態を把握するためにつまづきのタイプについてお話しします。

読み、書き、計算のつまづき・読み、書きといった書字の言語や、計算、論理的思考といった算数・数学領域のどこかに特徴ある学びにくさやつまづきをもつ、もっとも典型的なLDです。

話すことばのつまづき：聞く、話すといった話すことばの理解や使用に学びにくさやつまづきをもつLDです。

社会性のつまづき：このタイプは、前ページで説明した「引き出し」のきしみからくる社会性の育ちにくさと、適切な理解や指導がされなかつた結果として、後から生じる社会性の問題との両方があり、区別がつきにくいので定義には含まれませんが、指導上はとても大切なつまづきです。

運動のつまづき：発達に障害があると運動面にもつまづきがでやすくなりますが、LDには、そうしたつまづきをもつものともないものとがあります。こうしたつまづきを重複する場合には、仲間とうまく遊べなかつたり、運動やゲームに参加することをさけがちになることがあるので注意が必要です。

注意集中の欠陥や多動性：LDの約3割に重複するといわれるのが注意欠陥多動性障害（ADHD）です。重複している場合には、それぞれの問題への関わりがあるので、きちんとみていかなければなりません。

## 7. わが国におけるLDへの取り組みについて

アメリカでは1960年代からLDへの関心が高まり、1975年から正式に特別な教育の支援対象となっています。義務教育終了後も、大学教育や就労においても、LDへの理解や支援が準備されており、LDということでできるだけ不利を受けることのないようさまざまな努力が払われています。

わが国では1990年に全国のLD親の会ができしたことなどをきっかけに、文部省（2001年1月より省庁再編により文部科学省）で公式な検討が開始され、1992年には「LDに関する調査研究協力者会議」が設置されました。

1999年に協力者会議の最終報告が出され、全国的に、LDの判断・実態把握体制に関する新規のモデル事業が開始されるようになりました。

学校・教育機関でのLDの発見・判断から具体的な対応方針の策定にあたって、手順として、①校内委員会、②専門家チームによる判断の二段階のシステムが示されています。

「校内委員会」は全校的な支援体制を前提としています。担任ひとりが学級で抱え込んで悩むのではなく、まず学年・学校として、しっかり児童生徒の実態を把握し、有効な対策を校内のチームワークで検討する体制を作るところから始まります。

校内委員会から、さらにもっと専門的な対応が必要と判断された場合には、親の同意のもと、都道府県又は政令指定都市の教育委員会によって設置された専門家チームが専門的な判断を行います。

専門家チームの役割は、LDかどうかの判断だけでなく、望ましい教育的な対応についての具体的なアドバイスをすることです。

## 第2章 家庭での取り組み

### 1. 親としての考え方と配慮の仕方

#### (1) 自分たちの価値観を確かめる

生きていく上で私たちは何を大切にしているか、どんな人になつてほしいか、ということを一度ゆっくり夫婦で考えてみましょう。多くの場合、子どもよりも親のほうが先に死んでしまいます。親である私がいなくなつてからこの子たちはどんなふうに生きていけるのだろうかと考え、子どもが一人で何とかやっていけるように、長期的な展望に立ち工夫して計画的に子育てに取り組みましょう。どんな子どもの親であっても、親としては生きていく上でどういうことを伝えたいか、何を教えていきたいか、どんな人間になってほしいか、というところをしっかりと考えていく機会を意識して持ちたいものです。親自身の価値観がしっかりと筋が通っていないと子育てはうまくいきません。LDの子どもの親だからこそ、しっかりと先を見据えた賢い子育てが必要です。

LDの子どもは確かに育てにくい子どもかもしれません、この子がいなければ人生の上で見落としてしまっていたかもしれない大切なことを、私達はもう見つけているかもしれません…。

#### (2) 身近に相談にのってくれる人を探す

結果的に既に親になっている私たちですが、完全に最初から親としてでき上がっているわけではありません。子どもを育てる中で不安なことは山のようにあり、隠しておきたい失敗も数え切れません。でも、くよくよしていても始まりません。自分自身が親として修業していくんだというくらいの気持ちで、毎日悩みながら子どもと一緒に頑張ってみようかな、と思えばいいのではないでしょうか。

そして、不安な時、困った時には一人で思い悩まず、誰かに相談

してみましょう。相談相手として適しているのは、同じような子どもを育ててきた先輩の人達、専門的な知識を持つ相談機関の人などでしょう。この冊子には地域の親の会の情報が掲載されていますから、連絡をとってこれからどうすればいいのか、地域にあった水先案内をしてもらいましょう。親の会の活動に参加することによって、ネットワークも広がり、地域の情報を得ることができます。

#### (3) あちらこちらの病院を連れ歩かない

いくら相談をするといっても、あちらこちらの相談機関、病院をはしごするのはいただけません。小さいうちは子どもが口に出して言わなくても、初めての場所や人と応じるだけで緊張を感じ疲れるものです。同じ検査を何度も受けてしまうという場合もあれば、そのために正確な結果がない、ということも起こります。大きくなるにしたがって、「どうしてぼくは病院や〇〇相談所というところに何度も行くのだろう」と自問もします。大人に対する不信感をさらに大きくしないように、節度ある態度をとりたいものです。手当たり次第に病院まわりをするのではなく、評判や内容を確かめてから行くようしましょう。

#### (4) 親の態度に一貫性をもたせる

子どもが同じことをしても、ある場合は叱り別の場面では放つておく、というのでは子ども自身も迷ってしまうでしょう。自分たち親が困ることをするから叱る、というのではなく、善悪の基準に照らし合させていけないことをすれば叱られ、よいことをすると褒められるということを、ことが起ったその場で教えます。どんな場合にも一貫性のある態度をとること、また学校や場面が変わっても大人は同じように一貫性をもって子どもに対応できるように連携をとっておくことが大切です。

## 2. 幼児期の取組み

### (1) しつけは親の役割

清潔を保つこと、相手に不快感をいだかせないように食事ができること、衣服の着脱が一人でできることなどの身辺の自立、挨拶や感謝、謝罪の気持ちを表すことができることなどはしつけの領域です。しかし、LDの子どもの場合は、計画性をもって意識的に教えていかなければ身に付かない場合が多いと思いましょう。また、出来ないと思って手助けしていると、いつまでたっても出来るようにはなりません。毎日の生活で繰り返される動作であればあるほど教える機会も多いので、徐々に手助けを減らして自分で出来る部分を増やしていくようにしましょう。

### (2) がまんをすることを教える

がまんをすることは、どの子どもにとっても始めはむずかしいものです。でも、ちょっとがまんをしているところを見つけてオーバーなくらい褒めると、子どもは褒められたうれしさから、次にもがまんしようとします。LDの子どもたちはじっとしていることができなかったり、順番を待つことがなかなか出来なくて、叱られる回数が多くなりがちです。このような場合には叱ってがまんさせるのではなく、親が楽しく待てるように工夫をすることが必要です。「この子は発達が遅れているからこうなんだわ」と親自身が子どもを退屈させない工夫をせず、子ども自身の問題として片付けてしまうことのないように気をつけましょう。「どうして～するの！」「何度言つたらわかるの！」等とできないことを繰り返し責められていては、がまんをする気持ちは育ちません。ちょっとしたことをオーバーなくらい褒めてもらえる体験が積み重なって、がまんができるようになるのです。

### (3) 身体をつかった遊びをたくさんする

同じ姿勢を一定時間保つ力や、距離感や方向感覚を子どもは戸外での様々な遊びを通して身につけます。いろいろな感触の素材を使っての創作活動も、興味を持ってよく見ようとする力や、手先の巧緻性、形を理解したり記憶する力を養います。



### (4) 時を待つ

公園についていって、周りの同年齢の子どもといっしょに遊べない、ことばの発達が遅れていると気づき、幼稚園で集団についていけないとなると、親としてあせる気持ちや不安になるのが当たり前です。でも「なんとか追いつけ」と、顔をひきつらせて必死で練習をさせたり、お稽古事で毎日をギュウギュウ詰めにしてしまうと、さらに子どもを追い詰めることになりかねません。○○ちゃんには○○ちゃんのペースがあるのです。そのペースにあわせてあせらず、少しずつ成功体験を増やしてあげるように気を配りましょう。

### (5) 子どもの表情に気をつける

子どもは、ことばで上手く伝えられない心の不安や不満を身体の症状や行動として表します。周囲の子どもに比べて幼い状態のまま集団生活が始まると、背伸びをしなければならなかったり、ついていけないことへのストレスも感じていることでしょう。にこにこした笑顔が毎日見られるか、声をあげて心から笑うことがあるか、子どもの表情や様子に心を配っておきましょう。

## 3. 児童期の取組み

### (1) 捨てるものは捨てる

今は大人の私達も高校生の頃は、きらいな科目は超低空飛行でなんとかしのいできたのではないか。LDの子ども達には小学校の時期から、親の方で捨てるものを選んであげることが大切です。学校で学ぶ教科の学習事項は、軽度のつまずきを持つ子どもにとっては容量オーバーになる量です。これもあれもできてほしいと要求すること自体が無理ですから、基礎的な内容を大目に見て、「これだけは理解しておこう」というものを親のほうで選んでいきましょう。例えば、算数なら、「お金の計算」「時計」「計量」はがんばるけれども、「四角形の面積」や「直方体の展開図」は基礎的なことにとどめる、という具合です。

### (2) 友達作り

人生の上で友達がいるかいないか、それは大きな問題です。同じ年齢でなくてもかまないので、一緒に何かして楽しいと思える友達を作る機会を意識的に作っていきましょう。友達がいれば「約束をして守る」「譲る」「相手のことを考える」「けんかをしてしまった」といった場面にも出会い、その体験のなかでどう振る舞えば友達に受け入れられるかといったことを学ぶこともできます。学校で対等な友達を見つけることがむずかしければ、親の会等で同じものに興味を持っていて、ペースも似ている子どもとの接点を求めましょう。家族ぐるみの付き合い、地域や親の会の活動に参加するなど、親自身が社会性を発揮する機会を増やしていくことが、子どもの社会性を伸ばすことにもつながっていくこともあります。

### (3) 自己理解を促す

高学年になるにつれ、周りの子どもからの指摘や様々な体験によって、自分はみんなとどうも違うようだ、と子ども自身が感じてきま

す。そのような時に、子ども自身に自分の得意不得意についてあらためて振りかえってみる機会を設けましょう。例えば親自身の長所や短所をあげながら、どんな人にも長所・短所があり、短所については自覚しながら補うように努力をしていくのだと教えましょう。LDの子どもには、苦手なことを補う具体的な手段・方法（例：電卓、手帳を使う）を教え、日頃からその方法を使っていくことを練習させます。

#### （4）得意分野を作る

得意分野は始めからあるわけではありません。習い事は根気よく指導してもらえるおおらかな先生を選び、一人でできるようなもの（水泳や絵画等）を長く続けることによって上達することをねらいます。兄弟がいれば兄弟と比べることのないような配慮（同じ習い事をさせない、同じ先生につかない等）を加え、他人と比べるのではなく、その子どもの中の成長を見るようにしましょう。

#### （5）ストレスのよい発散方法を教える

これをしていると楽しい、と思えるような趣味があれば、ストレスをうまく発散させることができます。自立してから余暇の時間の使い方がわからず困ってしまう、職場でのストレスがたまってしまうということのないように、小さなうちからいろいろの解消のしかたを教えていきましょう。

#### （6）具体的な体験を豊富に

自分が実際に体験したことや、印象に強く残ることは忘れにくいものです。LDの子どもはことばで説明をされただけではわかりにくく、イメージを持つこともむずかしい場合が多いので、すべての事柄について、具体的な操作を自分でして確かめる方法を用いるよう心がけましょう。

### 4. 思春期の取組み

#### （1）ライフスキルを身につける

この時期は、一人で生活をする力をつけていくことに重点をおきます。金銭管理、健康管理、公的機関（郵便局や市役所など）の利用など、学校では保健体育や技術家庭、公民などという教科で学ぶ内容を、実際に体験しながら少しづつ身につけるよう練習することが大切です。お小遣いは、計算ができない、すぐに使ってしまう、という理由で渡さないのではなく、もらったお小遣いをどう使っていくのか実際に練習させるために、毎月一定額を渡します。お小遣いを計画的に使っていく、なくなったら次のお小遣いまでがまんをするといったことは、後々の生活力の基本になりますから、後回しにせずに教えていきましょう。また、交通機関を使っての単独移動、スケジュール管理の能力がどのくらいあるのか、子どもの実態をつかみながら、手帳や携帯電話の利用も含めて練習させます。時間の感覚がわかりにくい子どもには、タイマーを使う方法を教えたり、忘れやすい子どもには電子手帳も含めて子どもの能力に応じた手帳を使うなど、弱点を意識して補う方法も教えます。繰り返し言いますが、LDの子どもは自然に学ぶことが困難です。こんなこと知っているだろう、できるだろう、という楽観的な思いこみは通用しません。意識して教えていくことが必要です。

#### （2）ソーシャルスキル

仕事を持ち、自立した生活を送るには対人関係能力が必要です。対人関係能力は、人と接する中で学び身につけていきます。児童期の項目にも友達作りについて述べましたが、思春期にも、感情をコントロールする力、ストレスを上手に処理する力を含めて集団に適応し適切な行動をする力を育てることを意識しましょう。この時期には親が直接指導するより、同じようなハンディのある青年でグルー

プを作り、モデルになる大人が指導する活動に参加することが助けになるでしょう。その活動の中で新しい友達関係を築き、子ども同士で遊びに行くような行動範囲の広がりも期待しましょう。

#### (3) 問題行動？

思春期は異性への関心や飲酒、喫煙への興味など、親にとっては心配なことが次から次に出てくる時期でもあります。何事にもおこてなうちの子に限って…ということはないと思って、問題が出てきた時にあたふたしないことも肝心です。その年齢の子どもなら誰でも起こりそうなことに「大変だ！」と大騒ぎしないで、なぜいけないのか、そういうことをするとどんな結果になるか、ということを問題が明らかになった時がチャンスだと思って教えましょう。男の子の場合には、男同士の話として是非父親がかかわってください。

また、ただ説教をするというより、喫煙や薬物に関するビデオをいっしょに見ながら、一時停止をかけて説明したり、もう一度見せたりして丁寧に解説します。子どもたちはこのようなビデオを一度学校でも見ているかもしれません、スピードが速すぎて理解が追いつかず記憶にも残っていないと考え、親の会の活動などで仲間といっしょにもう一度学習する機会を持ちたいものです。

#### (4) 職業を意識した体験を増やす

高校生になったら、自分の特性を考えてどんな仕事が適しているのか考えられるように、職場見学や職業体験の機会をもちたいものです。中学生の時に職業体験プログラムを取り入れている自治体もありますが、夏休みなどをを利用してボランティア体験をすることや、できる子どもにはアルバイトをさせてみるのもよいでしょう。

## 第3章 学校での対応

### 1. LD児への教育的対応

どのクラスにも、通常の授業や家庭学習だけでは学習内容が定着しなかったり、理解することに困難を示す子どもがいます。また、普通に話しているし、日常生活の面でも大体のことができるのに、読みあるいは書字がなかなかできるようにならない子どもがいます。不器用でリコーターの演奏が苦手だったり、靴のひもが結べない子どももいます。たくさんの子どもたちを見てきている教師は、そのつまずきを発見し易いと言えます。いろいろ教え方を工夫してみても、どうもうまくいかない子どもがクラスにいましたら、ぜひ、「特別な援助が必要」な子どもではないか、と考えてみて下さい。

教育的対応の第一歩は「気づき」です。子どもたちが抱えている何らかの困難さに気づき、誰かに相談したり、文部科学省や都道府県の教育センターが配付しているパンフレットを見てみることから始めてみて下さい。

教育的対応を考える場合、「学習障害」かどうかを診断することが先決ではありません。子どもの困っている状態、あるいは教師自身が困っている状態に先ず眼を向けてみます。ひらがなが読めないこと、あるいは足し算や引き算ができないところで困っているのかも知れません。あるいは先生の指示の内容が理解できないために、どのように動いたらよいのか戸惑ってしまうのかも知れません。また、聞いた時は言われている内容がよく分かっているけれど、記憶することが難しいという困難さをもっているのかも知れません。

一方、教師にとっては、席を立って教室から勝手に出ていってしまったり、周囲の子どもたちにちょっとかいを出すような行動を示す子どもが大きな問題となるでしょう。

いずれの問題も、短期間で解決するようなものではありません。指導を継続しても、問題が完全に解決しない場合もあります。しかし、その子ども特有の困難さをもっていたとしても、少しでも授業に参加できたり、クラスメイトと楽しく過ごす時間を持つことができるような配慮を考え、実行していくことが教育的対応として望まれることだと思います。また、一人の子どもだけに担任がかかりつきりになることもできません。したがって、毎日の授業や学級活動、休み時間などの中で大きな負担がなくできることから始めます。

具体的にどのような取り組みができるか、ということは学級担任が中心となり、さらに、同僚の教師や管理職、特殊教育の経験のある教師、市町村教育委員会の指導主事などとも相談しながら試していくことが必要です。すなわち、学校全体でその子どもと担任を支え、指導上のアイディアを提供し、教材作成を手助けするような体制ができていれば、理想的です。しかし、最初から完成していくなくても、今ある人材や教材を使い、教師同士の助け合いによってすぐにできことがあるはずです。例えば、座席の位置の工夫や声かけの方法を少し変えるだけでも学習への取り組みが改善する場合があります。班編成や遠足の時のグループを決める時にほんの少し教師が関わることで寂しい思いをしないで済む子どももいます。学級の子どもたちのことが一番よく分かる担任が主体となって、専門的な指導方法や子どもの実態把握に関しては周囲の援助を受けて日々の教育を進めることができれば多くの子どもたちが救われると思います。そのためにも、困った時に「困った」「どう指導したらよいかわからない」「援助が必要です」と声を挙げることができる学校であってほしいと思います。

## 2. 指導上の配慮事項

### (1) 自信を失ったり、意欲をなくすことがないように

LDや軽度の発達の遅れを示す子どもたちは、その問題が見え難いので、一番苦手な部分を使う活動を強いられたり、できないことを意識化させられるなど、失敗経験を積み重ねてしまうことが多いと言えます。さらに、周囲の人が子どもの困難さを理解することが難しいので、本人には全く悪気がないのについしてしまうことに対しての叱責が繰り返されることもあります。このような状態が続くことによりどのような気持ちになるか、結果を想像することは難しくないでしょう。誰でも、失敗経験ばかりが重なったり、叱られてばかりいれば、物事に対する意欲を失います。新しいことに挑戦する気持ちも育たないし、自信を失った状態になってしまいます。

このような「最悪」の状態を避けるためには、どのような困難さをもつ子どもであっても、あるいはどのように大人の気持ちを乱すような行動を示す子どもであっても、まずは、達成感や認められる機会を少しでも確保することが必要です。子どもの良い所を探し、負担なく仕上げることのできる課題を用意し、周囲の子どもたちにも認められる機会を計画的に作ることが必要です。一日に1回でも良いのです。そのような積み重ねがあれば、意欲や自信が消失してしまうようなことにはなりません。

### (2) できないことをできるようにする／できないことと共存する

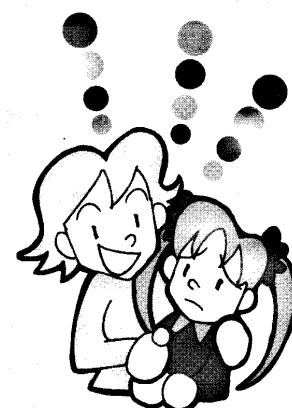
子ども一人ひとりがもつ困難さに応じて、その困難さへの対応は柔軟に考えていく必要があります。できないことをできるようにするために、指導方法に様々な工夫をすることもあれば、練習量を多く設定する場合もあります。しかも、子どもが楽しく取り組むことができるような配慮も忘れてはなりません。いずれにしても、そのような指導によってできなかったこと、つまずいていた部分ができ

るようになれば何よりだと言えます。

しかし、様々な工夫をしても、時間をかけて何度も練習しても、どうしてもできるようにならないような困難さを示す子どももいます。このような場合、年齢や意欲、生活していくことにどの程度必要かといった様々な観点から検討することが必要となります。今できなくても、将来できるようになる可能性もあります。また、できない、という状態と共に生活していく、という選択肢もあります。できないことをカバーするような機器類を利用するという方法もあります。例えば、書くことが難しい場合にワードプロセッサーを使うなどの方法がそれに当たります。

いずれの場合も、できないことが「悪いこと」、「困ったこと」であるという評価を伴わせないことが肝心です。また、他の子どもと比較することも避けたいことの一つです。同じ年齢だからといって、すべての子どもが同じように発達するわけではありません。また、できること、できないことが同じような特徴を示すわけでもないのです。総じて、大人は、「○

歳だから、この位できるはず」と思がちです。できないことがあっても、できることもあるし、得意なこともある、また、最も大切なのは自分も周囲の人も心地よく生活していくことである、といった価値観が育つように接していくことではないでしょうか。



### 3. 指導の基本と実際

#### (1) 実態を把握する

子どもの実態を把握するとは、以下の5点が含まれています。

- つまずきや困難さを明らかにすること
- そのつまずきや困難さがみられる状況を把握すること
- その子どもの内で得意な部分を見つけること
- 子どもの好きな活動、今凝っていること等を把握すること
- 周囲の人たち（担任や保護者）がそのつまずきや困難さに対してどのように考えているか。

実態把握というと、どうしても学習面のつまずきや問題行動だけに注目してしまいますが、実際には、子どもができないことだけに注目しても、指導に必ずしも結びつくとは限りません。基本的な順序としては、第一に、困難さをもたらしている原因を考え、第二に、それをどのようにしたら改善できるのかを考えます。困難さをもたらしている原因是、子ども一人ひとりによって異なります。例えば、字が読めない、というつまずきを示す子どもの場合でも、

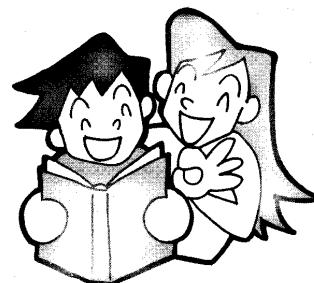
- 形の区別ができない
- 文字を見てもそれに対応する音と結び付けることができない
- 形を記憶することができない

といったような理由が考えられます。ここに例示したもの以外の原因で読めない子どももいるでしょう。したがって、子どもが苦手としている部分を見つけることができたら、その困難さをもたらしている原因について推察してみると、次の指導方法を見つけやすくなると思います。困難さの原因がわかりにくい時は、子どもの認知特性を把握できるような検査結果も参考になります。特殊学級や言語障害や情緒の通級指導を行っている教師、教育センターなどに協力してもらうとよいと思います。

## (2) 指導を実施する

次に、困難さを改善するための指導を実施する場合に、学級でできること、校内の担任以外の人に協力してもらうこと、学校外の機関で行なうことといったように、それぞれの場と人で分担して援助していくことが必要です。学級で実施する内容については、毎のことですし、他の30数人の子どもたちの指導も行いながら継続できるものを考えなくてはなりません。例えば、先に示した文字が読めない子どもで、形の区別ができないことが原因となっているような場合は、授業中に皆の前で読ませるようなことは避けなくてはなりません。その子どもが読める文字を把握し、その文字が出てきたときに、教師が手伝いながら読ませたり、できる限り周囲の者が読むものを耳から聞くことによって、学習内容を覚えることができるよう配慮が必要です。子どもができること、あるいは得意な部分を活用して学習に参加できるようにするのです。

一方、本人のペースに合わせて一字一字読める文字を増やしていくことも必要ですが、指導方法や教材については校内あるいは近隣の学校の特殊学級の教師、あるいは特殊教育の経験者に相談することをお勧めします。今まで特殊教育の中で蓄積してきた指導内容・方法をぜひ活用して下さい。また、家庭と協力していく場合には両者が同じ方針で子どもを支えていくことが大切です。



## 4. 保護者と学校・教師との協力について

保護者と学校の関係が順調であれば、子どもを中心として、皆が意欲的に安心して毎日を過ごせるものです。学校から帰宅した子どもの顔色が沈んでいる時も、すぐに学校と連絡をとって早い時期に問題を解決することができます。たとえできないこと、苦手なことがあっても、学校生活の中で自信や意欲を失うというような経験を最小限に止めるこどもができるでしょう。

では、保護者と学校が協力していくためにはどのようにしたらよいのか、考えてみたいと思います。

### (1) 保護者から情報を提供する

保護者にとって、自分の子どもであり、生まれた時から一緒に暮らしているにもかかわらず、特異な行動を示したり、当然できると思っていることができなかつたりした場合には困惑するものです。親も、自分の子ども時代の体験しかないので、自分と異なる状態を示す子どものことを理解し、受けとめていくのにかなりの時間がかかるはずです。専門機関を訪ねたり、本を読んだり、親の会から得た知識などを総動員して子どもを育てているはずです。それは、教師にとっても同じことで、今までの教師としての経験の中で出会ったことがないタイプの子どもを担任したときにはやはり困惑します。それまでの経験や知識の枠の中には含まれていなかった状態に対応していくことは誰にとっても難しいものです。

子どものことを一番よく知っているのは保護者です。子どものつまずきや特徴について、日々の生活の中から体得したものや専門機関からの情報について、ぜひ学校に、特に担任の先生に伝えて下さい。できれば、最初に「困惑」を経験する前に予備知識としてもついた方がよいかも知れません。「心の準備」ができているとゆとりが生まれますから。

## (2) 人間関係を作る

保護者と教師の関係についていろいろと言われています。「保護者は教師にすべてを任せた方が良い」、「学校に人質をとられているようなので、言いたいことが言えない」、「最近の親はすぐに文句を言ってくる」等々を最近よく耳にします。しかし、お互いに、何ができる何ができないか、相手が大切だと思っていることは何か、といったことが理解できていれば、このようなことばは出てこないはずです。お互いに十分に相手を知ろうとしないまま、子どもを間に挟んで、自分の立場だけから物を言っているように思えます。すべての基本は、人間関係をしっかりと作ることだと思います。そのためには、接する時間をできる限り多く作ることです。たいした用がなくても学校に足を運び、担任の先生と立ち話をして帰ってくることでもよいですし、手っとり早い方法は、PTAの役員を引き受けて、学校に行く機会を増やして校長や教頭とも親しくなることです。PTAは、同級生や他学年の保護者とも仲良くなるチャンスとなります。

担任との相互理解を深めるためには、面談も役立ちます。子どものことで気になることがあればすぐに電話をして、30分程の時間をとってもらうと良いでしょう。直接会う時間がとれない場合は、連絡帳という形で意見交換や情報交換することもできます。直接会うよりも冷静に思いを書いてよいかも知れません。どのような方法であれ、感謝と思いやりをお互いに感じることができるような関わりであれば、よい関係を築くことができると思います。

## 資料編 LDかなと思ったら

### 1. LD親の会とは？

#### 全国LD（学習障害）親の会とは？

私たちは全国各地で組織されているLD（学習障害）児・者を持つ親の会の全国組織です。1990年2月に活動を始め、2001年1月現在では43都道府県56団体が加盟しており、その会員数は約2,900名です。

#### 各地の親の会では、

キャンプ、クリスマス会、算数教室などの遊びや勉強会を企画し、子どもたちの友達作りや社会性のトレーニング等の活動を行っています。

また、親の活動としては有識者の講演会、子育て報告会、学校・職場見学会などの勉強会等を行っています。

また、県・市町村の教育委員会・福祉関係団体・企業などに対して、LDへの理解を高める啓発活動を行っています。

#### 全国LD親の会では、

中央省庁（文部科学省、厚生労働省）への要請活動、日本LD学会等の研究者・マスコミなどを通じての社会的啓発活動、他の障害者団体との情報交換等を行っています。

また、会報「かけはし」の発行等により、各地の親の会への情報提供や各親の会の活性化や各親の会の活動支援等を行っています。

#### 各地の親の会に参加するには？

私たちはLD及びその周辺児・者が、学校や社会生活への適応や療育上の問題に共通することが多いことから、それらを合わせて広くとらえ、仲間として連帯し、一緒に活動しています。

基本的にはLD（診断の有無は問いません）のある子どもを持つ親を正会員とし、会の活動に受け身ではなく、子どものことを考え、積極的に活動される方であれば、どなたでも参加できます。

## 2. 全国各地の親の会と連絡先

お問い合わせは、返信用封筒(80円切手貼付)を同封の上、封書でお願い致します。電話でのお問い合わせには応じておりませんのでご了承下さい。

2001.1.現在

都道府県	親の会の名称／連絡先
全 国	<b>全国LD(学習障害)親の会 事務局</b> 山岡 修 152-0001 東京都目黒区中央町2-18-11-301
北 海 道	<b>北海道学習障害児・者親の会「クローバー」</b> 山本 博子 004-0812 札幌清田区美しが丘2条8-14-14
北 海 道	<b>「わんぱくクラブ」親の会</b> 秋田 義郎 041-1112 北海道亀田郡七飯町字鳴川町1-48
北 海 道	<b>小樽地区LD親の会「ばととの会」</b> 松井 典彦 047-0021 小樽市入船4-17-19
北 海 道	<b>室蘭LDを考える会「ダビンチの会」</b> 熊谷 崇夫 051-0001 室蘭市御崎町2-4-20
岩 手 県	<b>岩手LD児・者を守る親の会「なすなの会」</b> 加藤 玲 025-0066 花巻市松園町385-56
宮 城 県	<b>宮城LD児・者親の会「ぼこあぼこ」</b> 米城 一政 982-0836 仙台市太白区山八木山松波町12-13
秋 田 県	<b>秋田県LD児・者親の会「アインシュタイン」</b> 佐藤 酉吉 010-0917 秋田市泉中央3-8-15
山 形 県	<b>山形県LD児・者親の会「ピーターパン」</b> 森谷 豊 990-2474 山形市大字沼木 433-35
福 島 県	<b>福島県学習障害(LD)児・者親の会「トライアングル」</b> 平栗 裕治 963-0107 福島県郡山市安積2-344みどり幼稚園内
茨 城 県	<b>茨城県学習障害児・者親の会「星の子」</b> 吉田 和夫 305-0031 つくば市吾妻2-824-9
茨 城 県	<b>茨城県学習障害児(者)親の会「わたけ」</b> 柳瀬 さなゑ 311-1132 水戸市東前町1209-3
栃 木 県	<b>栃木県学習障害児(者)親の会連絡会「ゆずりは」</b> 田中 直美 320-0051 宇都宮市上戸祭町2936-56
群 馬 県	<b>LD児親の会「ふた葉」</b> 村上 由美 371-0035 群馬県前橋市岩神町3-7-3
埼 玉 県	<b>親の会「麦」</b> 矢作 裕子 336-0017 浦和市南浦和3-22-18-207
埼 玉 県	<b>新座市LD児親の会「オーロラ」</b> 丹生 尚子 352-0011 新座市野火止4-19-23-502
千 葉 県	<b>千葉LD児・者親の会「コスモ」</b> 二口 欣也 279-0012 浦安市入船4-40-3

都道府県	親の会の名称／連絡先
東 京 都	<b>LD親の会「けやき」</b> 岩本 啓介 190-0001 立川市若葉町団地26-303
東 京 都	<b>「にんじん村」</b> 荒木 伸子 158-0082 東京都世田谷区等々力3-29-3-202
東 京 都	<b>LD児・者を考える会「くじら」</b> 東條 由美子 196-0011 昭島市上川原町3-9-25
東 京 都	<b>LD親の会「バルレ」</b> 島田 宏美 133-0057 江戸川区西小岩1-16-5 小岩NSビル2F 東京リブレ内
神奈川県	<b>神奈川学習障害児親の会「にじの会」</b> 大河原 健一 231-0836 横浜市中区根岸町1-27-1
新潟県	<b>新潟県LD親の会「いなほ」</b> 沼田 夏子 940-0051 長岡市西神田町2-8-8
富 山 県	<b>富山県学習障害児・者親の会「ゆうの会」</b> 中山 育子 930-0012 富山市稻荷町1-4-8
石 川 県	<b>石川県学習障害児親の会「P and L(バル)の会」</b> 西野 千春 921-8164 金沢市久安5-8
福 井 県	<b>福井「たんぽぽ」の会</b> 永井 和美 910-8691 福井市中央郵便局私書箱 181号
山 梨 県	<b>山梨LDを考える会「いちえ会」</b> 大木 ミル 400-0591 青柳郵便局私書箱第7号 山梨LDを考える会
長 野 県	<b>長野北信地区学習障害児・者親の会「竹とんぼ」</b> 酒井 はる美 381-0022 長野市大字大豆島 5952-2
長 野 県	<b>中信地区学習障害児・者親の会「ありんこ」</b> 黒島 勝子 399-8205 長野県南安曇郡曽科町曽科5500-4
静 岡 県	<b>静岡県学習障害児・者親の会「きんもくせいの会」</b> 勝田 邦子 420-0824 静岡市春日町13
愛 知 県	<b>学習障害児・者親の会「かたつむり」</b> 多久島 瞳美 444-0241 愛知県岡崎市赤波町字下池22-3
三 重 県	<b>三重県学習障害児・者親の会「ハナショウブの会」</b> 田中 三智子 510-0933 四日市市三滝台2-14-3
滋 賀 県	<b>滋賀LD親の会「トムソーヤ」</b> 松本 恵津子 522-0007 滋賀県彦根市古沢町467
京 都 府	<b>京都学習障害(LD)児親の会「たんぽぽ」</b> 阪上 道代 610-1191 京都市洛西郵便局 私書箱4号 京都LD親の会
大 阪 府	<b>大阪LD(学習障害)親の会「おたふく会」</b> 竹沢 澄子 559-0024 大阪市住之江区新北島 3-9-1-906
大 阪 府	<b>大阪学習障害親の会「翼」</b> 古泉 由利子 582-0027 柏原市円明町6-18
兵 庫 県	<b>兵庫県学習障害(LD)児・者親の会「たつの子」</b> 海原 早苗 651-2242 神戸市西区井吹台東町1-3-2-1801

都道府県	親の会の名称／連絡先
奈良県	奈良LD親の会「パンジー」 角谷 久美子 630-0243 生駒市俵口町218-24
和歌山県	和歌山學習障害(LD)児・者親の会「ちゅうりっぷ」 堺 由美子 640-8483 和歌山市園部401-55
鳥取県	LD児親の会「ラピットの集い」 加藤 佐由美 680-0155 鳥取県岩美郡国府町国分寺48
島根県	「紫陽花俱楽部」 岡田 博博 693-0033 島根県出雲市知井宮町969
広島県	広島LD児・者親の会「明日葉」 立花 千恵 733-0037 広島市西区西鶴音町22-15-201
山口県	山口県學習障害児・者親の会「ほっぺの会」 西川 雅裕 755-0001 宇部市大字沖宇部166-6
徳島県	徳島LD親の会 「ストーム」 浜田 昌義 770-0053 徳島市南島田町3-39 HDAアプローチセンター内
徳島県	らっこの会 平野 一彦 772-0011 岐阜市撫養町大桑島字澤岩5-4
香川県	香川LD學習障害・周辺児(者)親の会 井本 久美子 761-8051 高松市酉春日町1407-26-103
愛媛県	えひめLD親の会 門田 鈴枝 790-0853 愛媛県松山市上市2-1-18
福岡県	福岡LD(學習障害)児・者親の会「たけのこの会」 村上 悅子 812-0054 福岡市東区馬出1-21-1-302
福岡県	北九州LD親の会「すばる」 河野 弘美 807-0876 北九州市八幡西区浅川日の峯2-21-6
佐賀県	佐賀・筑後地区LDとその周辺児・者親の会 山内 久仁子 841-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町848-2
佐賀県	LD児とその周辺の子供達の会「元気塾」親の会 古賀 久美子 849-0505 佐賀県杵島郡江北町大字下小田1104
長崎県	長崎LD親の会「のこのこ」 緒方 康子 851-0121 長崎市宿町215-1-105
熊本県	熊本LD児・者親の会「めだか」 北村 洋子 861-1102 熊本県菊池郡西合志町須屋1836-16
大分県	大分LD親の会「ハーモニー」 森田 妙子 870-0162 大分市明野高尾3-12-4
宮崎県	宮崎LD(學習障害)児・者親の会「フレンド」 川野 喜代美 880-0051 宮崎市江平西2-2-20 ロイヤルハイツ神宮201
鹿児島県	鹿児島県LDを考える会「てんがらもん」 阿多 慎二 890-0005 鹿児島市下伊敷1-12-7-202
沖縄県	沖縄県LD児・者親の会「はばたき」 与那霸 敏子 903-0118 沖縄県中頭郡西原町字小波津233-76 B-114

### 3. 各地の診断・相談・療育機関

各地の親の会の会員がよく利用する、診断・相談機関・療育機関を掲載しています。(特殊教育センターは、別表をご覧下さい)

機関により内容が異なったり、変更になったりすることがありますので、詳細については、地元の親の会に照会するか、直接確認の上利用されることをお奨めします。

#### [区分の説明]

- 「診」 心理士・医師等によりLDも含めた診断・判定を行っている機関
- 「医」 小児科・小児神経科等の医師によるLDに対する診療を行っている機関
- 「相」 カウンセラー・心理士・医師等によるLDを含めた教育相談・療育相談を行っている機関
- 「教」 LD児等を対象とした療育を行っている機関  
(学習教室、ソーシャルスキル訓練、運動、キャンプ等の療育を行っている機関)

2001年1月現在

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
北海道	北海道立札幌肢体不自由児総合療育センター	診医相教	006-0041	札幌市手稲区金山1条1丁目2-2	011-682-1331
北海道	北海道立旭川肢体児不自由総合療育センター	診医相教	071-8142	旭川市春台2条1丁目	0166-51-2126
北海道	札幌市大保健医療学部作業療法学科	相教	060-8556	札幌市中央区南3条西17丁目	011-61-2111
北海道	市立札幌病院付属静療院児童部	診医相教	062-0934	札幌市豊平区平岸4-18	011-821-0070
北海道	おしまココニー地域教育センター	診医相教	049-0111	北海道上磯郡上磯町七重浜6-8-30	0138-46-6641
北海道	社会福祉法人「輪の会」	診医相教	004-0007	札幌市厚別区厚別町下野幌49-33	011-898-3929
北海道	北海道立緑が丘病院 児童部	診医相教	080-0334	音更町緑が丘1番地	0155-42-3377
北海道	北海道子ども心療内科 氏家医院	診医相教	065-0043	札幌市東区苗穂町3-2-7	011-711-3450
北海道	北海道大学教育学部 教育臨床講座	相教	060-0811	札幌市北区北11西7	011-706-3108
北海道	北海道教育大学附属教育実践総合センター	相教	002-8075	札幌市北区あいの里5-3	011-778-0676
岩手県	日本障害者雇用促進協会 岩手障害者職業	相	020-0133	岩手県盛岡市青山4-12-30	019-646-4117
岩手県	国立療養所南花巻院	診相	025-0033	岩手県花巻市諫訪500	0198-24-0511
岩手県	岩手県立南光病院(児童外来)	診医	021-0901	岩手県一関市真栄字矢ノ目沢56-19	0191-23-3655
岩手県	岩手大学教育学部 加藤義男研究室児童相談室	相	020-0066	岩手県盛岡市上田3-18-33	019-621-6634
岩手県	盛岡第二AMBI教室	相教	020-0861	盛岡市南大通3-457リバーサイドビル	019-625-9968
宮城県	東北大医学部付属病院 小児科	診医	980-8574	仙台市青葉区星陵町1-1	022-717-7744
宮城県	宮城厚生協会坂総合病院小児科(塩釜)	診医	985-0024	塩釜市塩釜16-5	022-365-5175
宮城県	仙台YMCA	教	980-0822	仙台市青葉区立町9-7	022-222-7645
宮城県	五十嵐小児科	診医	981-3203	仙台市泉区高森1-1-234	022-377-4832
秋田県	秋田県小児療育センター	診医相	010-0941	秋田市川尻町八橋境2-11	018-823-7530
秋田県	本荘第一病院 心療内科	医相	015-0000	本荘市岩渕下110	0184-22-0111
山形県	山形県中央児童相談所	診相	990-0031	山形市十日町1-6-6	023-622-2543
山形県	山形県立総合療育訓練センター小児科	診医相	999-3145	上山市河崎三丁目7-1	023-673-3366

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
福島県	福島県教育センター相談部	相、教	960-0101	福島県福島市瀬上町字五月田16	024-553-3141
福島県	福島県心身障害児総合療育センター	診、医、相	963-8041	郡山市富田町字上ノ台4-1	024-951-0143
福島県	福島県精神保健福祉センター	診、医、相	960-8012	福島市御山町10-9	024-535-3556
福島県	福島県立医科大学神経精神科	診、医、相	960-1295	福島市光が丘1番地	024-548-2111
福島県	いわき市立常磐病院	診、医、相	972-8322	いわき市常磐上湯長谷町上ノ台2	0246-43-4175
福島県	いわき地域療育センター	相	974-8232	いわき市錦町重巣15	0246-65-6266
福島県	桜ヶ丘病院	診、医	960-0111	福島市丸子字上川原28-73	024-553-1569
福島県	すみのクリニック	診、医	963-0201	郡山市大根町御前3-1	024-934-8015
栃木県	宇都宮市立教育研究所	相、教	320-0806	宇都宮市中央1-1-13	028-633-1371
栃木県	栃木県身体障害医療福祉センター	医、教	320-0072	宇都宮市若草1-10-38	028-622-8207
栃木県	自治医科大学附属病院 小児科(小児精神科)	診、医、相	329-0498	河内郡南河内町薬師寺331-1	0285-44-2111
栃木県	国際医療福祉大学 言語聴覚センター	医、相、教	324-8501	大田原市北金丸2600-1	0287-24-3028
茨城県	筑波大学教育相談・心身障害学教育相談	診、相、教	305-0005	茨城県つくば市天王台1-1-1	0298-53-6809
茨城県	茨城県立こども病院(水戸)	医	311-4145	茨城県水戸市双葉台3-3-1	029-254-1151
茨城県	茨城県立医療大学附属病院 小児科	診、医、相	300-0331	茨城県稻敷郡阿見町阿見原4733	0298-88-9200
茨城県	茨城県立友部病院 思春期外来	診、医、相	309-1717	茨城県西茨城郡友部町旭町6	0296-77-1151
茨城県	つくば市立病院 小児科	診、医、相	300-4231	茨城県つくば市大字北条5022	0298-67-1196
群馬県	群馬整肢療護苑	医、相	370-3531	群馬郡群馬町大字足門146-1	027-373-2277
群馬県	緑クリニック	医	370-3513	群馬郡群馬町北原25-3	027-373-8611
埼玉県	中央児童相談所	相	362-0013	上尾市上尾村1242-1	048-775-4411
埼玉県	埼玉県立小児医療センター	診、医、相	339-0077	岩槻市馬込2100	048-758-1811
埼玉県	大宮市心身障害総合センター	診、医、相	331-0052	大宮市三橋6-1587	048-622-1211
埼玉県	国立秩父文庫	医、相	359-0004	所沢市北原町860	042-992-2839
埼玉県	埼玉総合リハビリテーションセンター	医、相、教	362-0057	上尾市西貝塚148-1	048-781-2222
埼玉県	彩星学舎	教	336-0902	浦和市大東2-12-33	048-884-1234
埼玉県	カノン	教	331-0043	大宮市大町2-178-4坂口ビル1,2F	048-653-1518
千葉県	千葉県中央児童相談所	診、相、教	263-0016	千葉市稲毛区天台1-10-3	043-253-4101
千葉県	国立精神神経センター国府台病院	医	272-0827	市川市国府台1-7-1	047-371-2900
千葉県	千葉県癡育センター	診、医	261-0003	千葉市美浜区高浜4-8-3	043-279-1141
千葉県	淑徳大学発達臨床センター(就学前対象)	医、相、教	260-0812	千葉市中央区大巣寺町200	043-264-6042
東京都	東京都立多摩教育研究所・教育相談研究室	相	190-0022	立川市錦町6-3-1	042-524-7221
東京都	東京都立多摩療育園	診、医、相	183-0031	府中市西府町4-7-1	0423-66-2311
東京都	東京小児療育病院	診、医、相	208-0011	武蔵村山市学園4-10-1	0425-61-2521
東京都	東京都立海・丘病院子どもの精神保健相談室 LD専門外来	診、医、相	156-0043	世田谷区松原3-37-10	03-3323-1621
東京都	国立小児病院精神科・神経科 小児差療研究センター	医	154-8509	世田谷区太子堂3-35-31	03-3414-8121
東京都	国立大麻病院 成育外来(小児科・精神科)	医	157-8535	世田谷区大蔵2-10-1	03-3416-0181
東京都	国立精神・神経センター武藏病院小児神経科	医、相	187-8551	小平市小川東町4-1-1	042-341-2711
東京都	世田谷総合福祉センター	相	156-0043	世田谷区松原6-41-7	03-5376-3411
東京都	日本大学・医学部附属板橋病院・小児科	診、医	173-8610	板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
東京都	日本社会事業大学附属子ども学園	診、相、教	204-0024	清瀬市梅園1-2-50	0424-91-8131
東京都	東京女子医大附属病院小児心理室	診、医、相	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111
東京都	東京逕信病院小児神経科(飯田橋)	診、医	102-8798	千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111
東京都	東邦医大附属大橋病院小児科	診、医	153-0044	目黒区大橋2-17-6	03-3468-1251
東京都	東京学芸大学・発達障害電話相談	相		電話相談のみ	0423-29-7686
東京都	白百合女子大学臨床心理研究室	診、医、教	182-8525	調布市緑ヶ丘1-25	03-3326-5050
東京都	子どもの城・小児保健クリニック	診、医、相	150-0001	渋谷区神宮前5-53-1	03-3797-5667
東京都	安田生命社会事業団・すこやか育成相談室	医、相、教	170-0013	豊島区東池袋1-34-5 安田生命ビル	03-3590-6471
東京都	旭出學園教育研究所	診、相、教	178-0063	練馬区東大泉7?1216	03-3922-4422
東京都	長瀬総合癡育研究所・こども相談室	診、相、教	102-0072	千代田区飯田橋2-6-1 小宮山ビル4F	03-3221-9015
東京都	西東京YMCA	教	186-0003	国立市富士見台2-35-11	0425-77-5521
東京都	のぞみ発達クリニック	診、医、相	125-0054	葛飾区高砂7?2673	03-3627-9029
東京都	リソースセンターONE	教	130-0005	台東区駒形1-1-10 第一金庫ビル2F	03-3843-9455
東京都	司馬クリニック	医、相	180-0022	武蔵野市境2-2-3 渡辺ビル4F	0422-55-8707
東京都	発達協会・王子クリニック	診、医、相	114-0002	北区王子4-2-11	03-5390-3911
群東川県	国立特殊教育総合研究所	診、相、教	239-0841	横須賀市野比5-1-1	0468-48-4121
群東川県	県央癡育センター	相、教	242-0022	大和市柳橋5-2-7	0462-69-0066
群東川県	平塚市子ども教育相談センター	診、相、教	254-0000	平塚市浅間町4-39	0463-36-6012
群東川県	神奈川学習障害教育研究協会	診、相、教	226-0025	横浜市緑区十日市場町801-8	045-984-7910
群東川県	クリニックかとう	診、医	226-0025	横浜市緑区十日市場803-2-1サウナビル1F	045-985-2540
群東川県	横浜北YMCA	相、教	222-0011	横浜市港北区菊名6-13-57	045-433-4321
群東川県	LD発達相談センターかながわ	相、教	226-0025	横浜市緑区十日市場819-3 第2駒山ビル3F	045-989-3501
新潟県	新潟県立療養所悠久久 児童精神科	診、医、相	940-0015	長岡市寿2-4-1	0258-24-3930
新潟県	上越教育大附属障害児教育実践センター	相、教	943-8512	上越市山屋敷町1-945	0255-22-2411
新潟県	新潟大学教育人間科学部 障害児教育専修	相、教	950-2102	新潟市五十嵐二の町8050	025-262-7228
新潟県	はまくみ小児療育センター	診、医、相	951-8121	新潟市水道町1-5932	025-266-0151
富山県	富山大学教育学部障害児心理研究室	診、相、教	930-0887	富山市五福3190	076-445-6356
富山県	富山県高志通園センター	医、相	931-8443	富山市下飯野36	076-438-5694
富山県	富山医療福祉専門学校	相	936-0023	富山市柳原149-9	076-476-0001
石川県	石川癡育センター	診、医、相	920-1146	金沢市上町1-167-2	076-229-3033
石川県	金沢市教育センター	相、教	920-0852	金沢市此花町2-7	076-221-7949
石川県	金沢医科大学精神科	診、医、相	920-0265	河北郡内灘町大学1-1	076-286-2211
石川県	金沢大学教育学部	診、教、相	920-1192	金沢市角間町	076-264-5512
石川県	石川整肢学園	診、医、相	921-8105	金沢市平和町1丁目2-28	076-242-2378
石川県	のぞみ小児科医院	診、医、相	921-8064	金沢市八日市4-373	076-269-8585
福井県	福井県小児療育センター	診、医、教	910-0846	福井市四ツ井2-8-48	0776-53-6573
山梨県	甲府公立病院小児科	診、医、教	400-0034	甲府市宝1-9-1	055-226-3131
山梨県	みぞべこどもクリニック	診、医、相	400-0026	甲府市塙部4-14-12	055-252-1811
長野県	長野県精神保健福祉センター	診、医、相	380-0923	長野市若里1570-1	026-227-1810

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
長野県	長野県立こども病院神経科、リハビリ	診医.相	399-8288	長野県南安曇郡豊科町豊科3100	0263-73-6700
長野県	厚生連北信総合病院 小児科神経外来	診医.相	383-0021	中野市西1-5-63	0269-22-2151
長野県	信州大学医学部付属病院神経科 児童	診医.相	390-8621	松本市旭3-1-1	0263-35-4600
長野県	長野市民病院 小児科	医.相	381-0882	長野市富竹1333	026-295-1199
静岡県	静岡県立こども病院	診医.相	420-8660	静岡市駿河山860	054-247-6251
静岡県	NTT東日本伊豆病院 小児リハビリ科	診医.相	419-0107	静岡県田方郡函南町平井750	0559-78-2320
愛知県	愛知県心身障害者コロニー	診医.相	480-0304	春日井市神屋町713-8	0568-88-0811
愛知県	名古屋市立大学病院小児神経科	診医.相	467-0001	名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1	052-851-5511
愛知県	名古屋大学附属病院	診医.相	466-0065	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-741-2111
愛知県	みなみこども診療所	診医.相	457-0814	名古屋市南区柴田本通4-12	052-613-1251
愛知県	心理療育研究所マニ教室	相.教	464-0067	名古屋市千種区池下1-6-20-306	052-763-6197
愛知県	豊田市こども発達センター のぞみ診療所	診医.相	471-0062	豊田市西山町2-19	0565-32-8985
三重県	三重県立小児診療センターあすなろ学園	診医.相	514-0818	津市城山1-12-3	059-235-5556
三重県	齊藤タルククリニック	診医.相	514-0063	津市若見町630-122	059-222-7587
滋賀県	滋賀県立小児保健医療センター	診医.相	524-0022	守山市守山町5丁目7-30	077-582-6200
滋賀県	滋賀県心身障害者総合療育センター	診医.相.教	524-0022	守山市守山町5-6-15	077-583-2125
滋賀県	中央児童相談所	相	525-0056	草津市南笠町87-10	077-562-1121
滋賀県	高根児童相談所	相	522-0043	彦根市小泉町932-1	0749-24-3741
滋賀県	近江八幡YMCA	教	523-0891	近江八幡市鷹町537-3	0748-33-2420
京都府	京都府児童相談所	相	602-8075	京都市上京区中立売下ル小川町184-1	075-432-3278
京都府	京都市児童相談所	診.相	602-8155	京都市上京区竹屋町千本東入主街町10-25	075-801-2929
京都府	京都市児童福祉センター	診医.相	602-8155	京都市上京区竹屋町千本東入主街町10-25	075-801-2929
京都府	宇治児童相談所	相	611-0033	宇治市大久保町井ノ尻13-1	0774-44-3340
京都府	長岡京市教育センター	相	617-0824	長岡京市天神4-1-1	075-952-5151
京都府	長岡京市役所内 母子保健係	相	617-0826	長岡京市棚田1-1-1	075-951-2121
京都府	京都大学医療短期大学作業療法学科	相	606-8397	京都市左京区聖護院川原53	075-751-3964
京都府	京都府立医科大学附属病院小児科	診医.相	602-0000	京都市上京区河原町小路上院井465	075-251-5567
京都府	京都大学病院小児科	医.相	606-8397	京都市左京区聖護院川原54	075-751-3710
京都府	子どもの発達・学習研究所 クレーカ	診.相.教	604-0812	京都市中京区高倉二条上院天守町753-1-206	075-212-7153
大阪府	大阪府子ども家庭センター(府内7ヶ所)	診.相	572-0838	寝屋川市 八坂町 28-5 他	0720-27-0852
大阪府	大阪府立身体障害者福祉センター(堺市)	診.相	590-0808	堺市旭ヶ丘中町4-3-1	0722-44-8000
大阪府	大阪府立こども健康総合センター	診.相	558-0056	大阪市住吉区万代東3-1-46	06-6007-8814
大阪府	大阪府衛生労働省効率化課カウンセリングセンター	相	540-0033	大阪市中央区石町233エルおおかず館	16-6946-2614
大阪府	大阪市中央児童相談所	診.相	547-0026	大阪市平野区喜連西6-2-55	06-6797-6520
大阪府	大阪市立総合医療センター・児童青年神経科	診医.相	534-0021	大阪市都島区都島本通2-53	06-6929-1221
大阪府	大阪教育大学障害児教育学科	診.相.教	582-0026	柏原市旭ヶ丘 4-698-1	0729-78-3488
大阪府	大阪医科大学小児科LD外来(高槻市)	診医.相	569-0801	高槻市大学町2-7	0726-83-1221
大阪府	近畿大学医学部附属病院小児神経科	診医	589-0014	大阪狭山市大野東377-2	0723-66-0221
大阪府	大阪西YMCA(大阪市)	診.相.教	550-0001	大阪市西区土佐堀1-5-6	06-6441-0895

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
兵庫県	兵庫県西宮こどもセンター	診.相	662-0862	西宮市青木町3-23	0798-71-4670
兵庫県	兵庫県のじぎく療養センター	診医.相.教	651-2215	神戸市西区北山台2-566-361	078-994-2525
兵庫県	神戸市心身障害福祉センター	相(1歳以上)	650-0004	神戸市中央区中山手5-1	078-577-6505
兵庫県	西宮市総合教育センター	相	662-0843	西宮市神戸官町2-6	0798-67-6860
兵庫県	加古川市教育研究所	相	675-0031	加古川市加古川町北在家20	0794-21-5464
兵庫県	兵庫県姫路市こどもセンター	相	670-0092	姫路市新在家本町1-1-58	0793-97-1261
兵庫県	姫路市総合福祉通園センター	医.相.教	670-0806	姫路市増井新町2-27	0792-88-7123
兵庫県	兵庫教育大学教育費学部附属園芸教育実践センター	相.教	673-1416	兵庫県加東市社町下久米942-1	0795-44-2285
兵庫県	武庫川女子大学教育学科障害児教育研究室	相	663-8137	西宮市池開町4-46	0798-45-3535
兵庫県	聖和大学児童相談研究所	相.教	662-0827	西宮市岡田山7-54	0798-52-1383
兵庫県	西宮YMCA	診.相.教	662-0977	西宮市神楽町5-23	0798-35-5987
兵庫県	南芦屋浜病院	診医	659-0000	芦屋市陽光町3-21	0797-22-4040
奈良県	奈良県立中央児童相談所	診.相	630-8306	奈良市紀寺町833	0742-26-3788
奈良県	奈良県立心身障害者相談センター 小児科	診.相	636-0345	奈良県磯城郡田原本町大字多722	0744-32-0200
奈良県	奈良県立医科大学精神科	医	634-0813	橿原市四条町340	0744-22-3051
奈良県	奈良県立病院精神科	医	631-0846	奈良市平松町1-30-1	0742-46-6001
和歌山	和歌山県子ども障害者相談センター	診.相	641-0014	和歌山市毛見琴/浦1437-218	073-445-5311
和歌山	和歌山市立教育研究所	相	640-8227	和歌山市西汀丁29	073-435-1192
和歌山	和歌山県立医科大学付属病院	診医	641-0012	和歌山市紀三井寺811-1	073-447-2300
和歌山	日本赤十字社 和歌山医療センター	診	640-8269	和歌山市小松原通4-20	073-422-4171
和歌山	愛德整肢園	診医.相.教	641-0044	和歌山市今福3-5-41	073-425-2391
鳥取県	国立療養所西鳥取病院	医	689-0203	鳥取市三津876	0857-59-1111
鳥取県	鳥取県教育研修センター 教育相談課	相	680-0941	鳥取市湖山町北5-201	0857-28-2322
島根県	島根県立中央病院	診医.相	693-8555	出雲市姫原町	0853-22-5111
島根県	島根県立松江教育センター 特殊教育科	相.教	690-0873	松江市田中原町255-1	0852-22-5859
広島県	広島県児童相談所	相	734-0003	広島市南区宇品東4丁目1228	082-254-0381
広島県	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	医.相	739-0036	東広島市西条町田口29593	0824-25-1455
広島県	国立療養所原病院	診医.相.教	738-0031	廿日市市原926-1	0829-38-0111
広島県	広島市児童麻痺指導センター・療育指導相談所	医.相.教	732-0052	広島市東光町2丁目15755	082-263-0683
広島県	安佐市民病院 リハビリテーション科	相.教	731-0223	広島市安佐北区寺部南2丁目1?1	082-815-5211
広島県	青少年総合相談センター	相	730-0042	広島市中区国泰寺町1丁目415	082-242-2013
山口県	山口大学医学部付属病院小児科	医	755-0067	宇部市南小串1-11	0836-22-2258
山口県	山口リハビリテーション病院	診医.相.教	753-0851	山口市黒川3380	0839-21-1616
山口県	こども音楽センター	相.教	753-0861	山口市大字矢原1115	0839-23-0597
徳島県	徳島大学附属病院 小児科	診医	770-8503	徳島市蔵本町2-50-1	088-633-7135
徳島県	HDAアプローチセンター	相.教	770-0053	徳島市南島田町3-39	088-632-4322
徳島県	こどもの発達研究室きりん	相.教	770-0867	徳島市新南福島1-6-3	070-5750-5648
香川県	香川県子ども女性センター	相	760-0004	高松市西宝町2-6-32	087-862-8861
香川県	香川県身体障害者総合リハビリセンター	診医.相.教	761-8057	高松市田村町1114	087-867-6008

都道府県	機関名	区分	〒	住所	電話
香川県	香川医科大学病院精神科	診医	761-0701	香川県木田郡三木町池戸1750	087-898-5111
香川県	国立療養所香川小児病院精神科	診医・相談	765-0000	善通寺市伏見2603	0877-62-0885
香川県	NTT高松病院	診医・相談	760-0076	高松市観光町649-8	087-889-9620
香川県	高松平和病院小児科	診相	760-0073	高松市栗林町1-4-1	087-833-8113
愛媛県	愛媛県中央児童相談所	診相	790-0824	松山市御幸2-3-45	089-922-5040
愛媛県	愛媛大学教育学部障害児教育講座	診相	790-0826	松山市文教町3	089-927-9000
愛媛県	愛媛県脳癡瘍センター	相	790-0811	松山市本町7-2	089-924-3845
福岡県	福岡市立児童相談所	診相	815-0082	福岡市南区大楠1-35-17	092-522-2737
福岡県	北九州市立総合療育センター	診医・相談	802-0803	北九州市小倉南区春ヶ丘10-2	093-922-5596
福岡県	福岡教育大学付属障害児治療教育センター	診相	811-4192	宗像市赤間72991	0940-35-1559
福岡県	久留米大学医学部付属病院小児科	診医・相	830-0011	久留米市相原町67	0942-35-3311
福岡県	福岡大学病院小児科(発達心理)	診医	814-0180	福岡市城南区七隈7-45-1	092-801-1011
福岡県	九州大学医学部付属病院精神科(小児精神)	診医	812-0180	福岡市東区馬出3-1-1	092-641-1151
福岡県	こくま学園	相・教	838-01	福岡県小郡市大坂井字井尻1143-1	0942-72-7221
福岡県	聖アリア病院 心理療法科	相	830-0047	久留米市津留本町422	0942-35-3322
佐賀県	国立肥前療養所小児神経科	診医	842-0104	佐賀県神埼郡東肥振村三津160	0952-52-3231
佐賀県	県立病院好生館 耳鼻咽喉科	教	840-0054	佐賀市水ヶ江1-12-9	0952-24-2171
佐賀県	佐賀県肢学園 こども発達医療センター	相・教	849-0906	佐賀市金立町大字金立2215-27	0962-98-2211
長崎県	長崎大学医療短期大学部作業療法学科	診・相・教	852-8102	長崎市坂口1-7-1	0958-49-7993
長崎県	子供発達センター	診医・相・教	857-0024	佐世保市花園町101-1	0956-23-3945
長崎県	長崎YMCA	教	850-0042	長崎市御船町1-4	095-822-5987
熊本県	熊本県福祉総合相談所	相	862-0930	熊本市長嶺南27373	096-381-4411
熊本県	九州ルーテル学院大学	相・教	860-0862	熊本市黒髪3丁目12216	096-343-1600
熊本県	九州看護福祉大学	相	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1800
熊本県	はつり心療クリニック	診医・相	862-0950	熊本市水前寺2-1-30-201	096-382-1324
熊本県	熊本リハビリテーション学院	教	862-0930	熊本市小山400-1	096-389-1133
熊本県	津津湖療育園	相・教	862-0921	熊本市西区重富字餅溝574	096-370-0501
大分県	大分中央児童相談所	診・相	870-0889	大分市住原5	097-544-2016
大分県	中津児童相談所	診・相	871-0024	中津市中央町1-10-22	0979-22-2025
大分県	別府発達医療センター	診	874-0833	別府市大字鶴見4075-1	0977-22-4185
大分県	フリースペースFREELY	相・教	870-0839	大分市金池南一丁目1	097-544-8902
宮崎県	宮崎県中央福祉相談センター	診・相	880-0032	宮崎市霧島1-1-2	0985-26-1551
鹿児島県	鹿児島大学付属病院小児神経科	医	890-8520	鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	099-275-5111
鹿児島県	鹿児島こども療育センター	診・相・教	890-0062	鹿児島県鹿児島市吉野町4484-2	099-244-4644
鹿児島県	社会福祉法人向陽会 ひまわり病院	診・医・教	890-0052	鹿児島市上之園町20-28	099-252-5166
沖縄県	琉球大学教育学部 障害児教育実践センター	診・相・教	903-0129	西原町字千原1	098-895-2221
沖縄県	那覇市療育センター	相・教	901-0151	那覇市鏡原10-8	098-858-5206
沖縄県	国立療養所琉球病院	医・相	904-1201	金武町金武 79581	098-968-2133
沖縄県	たかえすクリニック	医・相	900-0004	那覇市路180-3	098-862-7422

#### 4. 各地の特殊教育センター

特殊教育センターは、都道府県と政令指定都市には必ず1カ所設置されています。教育センターと併設されている場合と単独で設置されている場合があります。

特殊教育センターには教育相談窓口がありますので、相談機関として利用することができます。

相談の受付・方法や、学習障害についての取組み・対応はセンターによって異なりますので、地元の親の会に照会するか、直接確認の上利用されることをお奨めします。

2001.1.1現在

県・市	名称	〒	住所	電話番号
北海道	北海道立特殊教育センター	064-0944	札幌市中央区円山西町2-1-1	011-612-6211
青森県	青森県総合学校教育センター	030-0123	青森市大字大矢沢字野田80-2	0177-63-1977
岩手県	岩手県立総合教育センター	025-0301	花巻市北湯第2-82-1	0198-27-2711
宮城県	宮城県特殊教育センター	981-3213	仙台市泉区南中山5-3-1	022-376-5432
秋田県	秋田県総合教育センター	101-0101	南秋田郡太王町天王追分西29-76	018-873-7200
山形県	山形県立教育センター	994-0021	天童市山元字犬倉津2515	023-654-2155
福島県	福島県養護教育センター	963-8041	郡山市富田町上ノ台4-1	0249-52-6497
茨城県	茨城県教育研修センター	309-1722	西茨城郡友部町大字平町字山ノ神1410	0296-78-2121
栃木県	栃木県総合教育センター	320-0002	宇都宮市瓦谷町1070	028-665-7200
群馬県	群馬県総合教育センター	372-0031	伊勢崎市今泉町1-233-2	0270-26-9211
埼玉県	埼玉県立総合教育センター	336-8555	浦和市三室1305-1	048-874-1221
千葉県	千葉県特殊教育センター	260-0853	千葉市中央区葛城2-10-1	043-227-1166
東京都	東京都立教育研究所	153-0063	目黒区目黒1-1-14	03-5434-1951
神奈川県	神奈川県立第二教育センター	252-0813	藤沢市亀井野2547-4	0466-81-8521
新潟県	新潟県立教育センター	950-2144	新潟市曾和100-1	025-263-1094
富山県	富山県総合教育センター	930-0866	富山市高田525	0764-44-6161
石川県	石川県教育センター	921-8153	金沢市高尾町ウ31-1	076-298-3515
福井県	福井県特殊教育センター	910-0846	福井市四ツ井2-8-48	0776-53-6574
山梨県	山梨県総合教育センター	406-0801	東八代郡御坂町成田1456	0552-62-5572
長野県	長野県総合教育センター	399-0711	塩尻市大字片丘字南唐沢6342-4	0263-53-8800
岐阜県	岐阜県教育センター	500-8384	岐阜市薮田南5-9-1	058-271-3325
静岡県	静岡県総合教育センター	436-0224	掛川市富部456	0537-24-9700
愛知県	愛知県教育センター	470-0151	愛知郡東郷町大字諸輪字上鉢68	05613-8-2211
三重県	三重県総合教育センター	514-0007	津市大谷町12	0592-26-3512

県・市	名 称	〒	住 所	電話番号
滋賀県	滋賀県総合教育センター	520-2321	野洲郡野洲町大字北桜	077-588-2311
京都府	京都府総合教育センター	612-0064	京都市伏見区桃山毛利長門西町	075-612-3266
大阪府	大阪府教育センター	558-0011	大阪市住吉区刈田4-13-23	06-6692-1882
兵庫県	兵庫県立障害児教育センター	651-0062	神戸市中央区坂口通2-1-18	078-222-3604
奈良県	奈良県立教育研究所	636-0343	磯城郡田原本町秦庄22-1	07443-2-8900
和歌山県	和歌山県教育研修センター	640-8137	和歌山市吹上5-6-1	0734-23-2183
鳥取県	鳥取県教育研修センター	680-0941	鳥取市湖山町北5-201	0857-28-2321
島根県	島根県立松江教育センター	690-0873	松江市内中原町255-1	0852-22-5861
岡山県	岡山県教育センター	703-8278	岡山市古吉町2-2-14	086-272-1205
広島県	広島県教育センター	739-0144	東広島市八本松町南1-2-1	0824-28-2631
山口県	山口県教育研修所	753-0893	山口市秋穂二島1062	0839-87-1160
徳島県	徳島県教育研修センター	770-0941	徳島市万代町5-22-9	0866-22-2733
香川県	香川県教育センター	760-0004	高松市西宝町2-4-18	087-833-4235
愛媛県	愛媛県総合教育センター	791-1136	松山市上野町甲650	089-963-3111
高知県	高知県教育センター	781-5103	高知市大津乙181	0888-66-3890
福岡県	福岡県教育センター	811-2401	糟屋郡篠栗町大字高田268	092-947-0079
佐賀県	佐賀県教育センター	840-0214	佐賀郡大和町大字川上字西山	0952-62-5211
長崎県	長崎県教育センター	856-0834	大村市玖島1-24-2	0957-53-1131
熊本県	熊本県立教育センター	861-0543	山鹿市小原	0968-44-6611
大分県	大分県教育センター	870-1124	大分市大字旦野原847-2	0975-69-0118
宮崎県	宮崎県教育研修センター	880-0835	宮崎市阿波岐原町前浜4276-729	0985-24-3122
鹿児島県	鹿児島県総合教育センター	891-1393	鹿児島郡吉田町宮之浦862	099-294-2311
沖縄県	沖縄県立教育センター	904-2174	沖縄市字与儀587	098-933-7555
札幌市	札幌市教育研究所	062-0901	札幌市豊平区豊平1条12丁目	011-813-0043
仙台市	仙台市教育センター	983-0825	仙台市宮城野区鶴が谷北1-19-1	022-251-7441
千葉市	千葉市養護教育センター	261-0003	千葉市美浜区高浜3-2-3	043-277-0101
川崎市	川崎市総合教育センター	213-0001	川崎市高津区溝口6-9-3	044-844-3600
横浜市	横浜市養護教育総合センター	240-0044	横浜市保土ヶ谷区仏向町845-2	045-336-6002
名古屋市	名古屋市教育センター	456-0031	名古屋市熱田区神宮3-6-14	052-683-6401
京都市	京都市立永松記念教育セ	600-8023	京都市下京区河原町通西入る	075-371-2340
大阪市	大阪市教育センター	552-0007	大阪市港区弁天1-1-6	06-6572-0263
神戸市	神戸市総合教育センター	650-0044	神戸市中央区東川崎町1-3-2	078-360-2001
広島市	広島市教育センター	732-0068	広島市東区牛田新町1-17-1	082-223-3563
北九州市	北九州市立養護教育センター	802-0803	北九州市小倉南区春ヶ丘10-2	093-921-2230
福岡市	福岡市発達教育センター	810-0065	福岡市中央区地行浜2-1-6	092-845-0015

## 5. 参考図書

書名	著者／出版社	発行年月／税抜価格
<b>&lt;入門書&gt;</b>		
LDとは 症状・原因・診断理解のために <LD教育選書I>	上野 一彦／二上 哲志 他 学習研究社	1996/10 ¥2,500
LDとは何か <わかるLDシリーズ>	上野 一彦 他 日本文化科学社	1996/02 ¥1,750
<b>落ち着きのない子どもたち</b> 多動症・ADHDへの理解と対応		
石崎 朝世 すずき出版	1995/07 ¥1,600	
<b>学習障害児と家族のために 第一部両親へ</b> みんなのMBD		
R.A.ガードナー 海鳴社	1990/01 ¥1,200	
<b>学習障害児の相談室</b> つまずきやすい子ども教育		
上野 一彦 有斐閣	1987/06 ¥1,680	
<b>きみといっしょに</b>		
全国LD(学習障害)親の会 朝日新聞厚生文化事業団	1996/10 ¥500	
<b>子育て質問箱</b> LD児の療育		
中川 克子 日本文化科学社	1998/08 ¥1,900	
<b>のび太・ジャイアン症候群</b> いじめっ子、いじめられっ子は同じ心の病が原因だった		
司馬 理英子 主婦の友社	1997/05 ¥1,500	
<b>ぼくのことわかつて</b>		
佐々木 正美／中川 克子／上野 一彦 朝日新聞厚生文化事業団	1990/02 ¥500	
<b>&lt;指導書&gt;</b>		
<b>LD児サポートプログラム</b> LD児はどうですか、どう教えるのか		
太田信子／西岡有香／田畑友子 日本文化科学社	2000/07 ¥2,900	
<b>LD児の指導法入門</b> その心理とはたらきの実際		
鈴村 健治／佐々木 徳子 川島書店	1992/03 ¥1,800	
<b>LD児の認知発達と教育</b> 個別教育計画のための		
高山 佳子 川島書店	1998/11 ¥1,800	
<b>LDと学校教育</b> <わかるLDシリーズ3>		
林 邦雄 他 日本文化科学社	1998/07 ¥2,100	
<b>LDと家庭教育</b> <わかるLDシリーズ5>		
牟田 悅子／森永 良子 日本文化科学社	1999/08 ¥2,100	
<b>LDの教育と医学</b> <LD教育選書2>		
上野 一彦他 学習研究社	1996/12 ¥2,500	
<b>LDの領域別指導事例集</b> <LD教育選書3>		
上野 一彦他 学習研究社	1997/02 ¥2,500	
<b>教えてみようさんすう(1)～(4) 新装版</b> 算数が心配な子どもと親の本!		
小笠 納 日本評論社	1999/08 ¥1,500	
<b>学習障害児の教科指導</b> 算数・国語を押さすため		
平山 諭／津田 誠一 他 福村出版	1993/09 ¥1,800	
<b>学級担任のためのLD指導Q&amp;A</b>		
上野 一彦 教育出版	1996/09 ¥2,000	
<b>教科別にみる 学習障害児の指導</b> 基礎から高校進学まで		
平山 諭／江田 裕介 他 福村出版	2000/07 ¥2,000	
<b>STEP BY STEP</b>		
LD親の会「んじん村」 にんじん村	1992/03- ¥500	

書名	著者／出版社	発行年月／税抜価格
<b>&lt;専門書&gt;</b>		
<b>LD一学習障害</b> 治療教育的アプローチ <小児メディカルケアシリーズ6>	森永 良子・上村 菊郎 医薬学出版	1980/02 ¥1,800
<b>学習障害</b> Lの理解と取り組み	上村 菊郎・森永 良子 他 医薬学出版	1989/10 ¥3,600
<b>学習障害</b> 児童的・精神医学的・教育的アプローチ	齊藤久子／石川道子 ブレーン出版	2000/02 ¥2,800
<b>学習障害(LD)及びその周辺の子どもたち</b>	尾崎洋一郎・草野和子 他 同成社	2000/04 ¥900
<b>学習障害・学習困難への教育的対応</b> 日本の学校教育改革を目指して	山口薰／岩沢一美 文教資料協会	2000/06 ¥3,400
<b>学習障害児の教育</b> 診断と指導のための実践事例集	上野 一彦・牟田 悅子 日本文化科学社	1992/01 ¥2,720
<b>学習能力の障害</b> 心理神経学的診断と療育教育	D. J. ジョンソン／R. マイクロバスト 日本文化科学社	1975/07 ¥5,825
<b>感覚統合Q&amp;A</b> 子どもの理解と援助のために	永井 洋一／浜田 昌義 協同医書出版社	1998/03 ¥2,800
<b>自立をめざす障害児教育</b>	梅永 雄二 福音出版	2000/02 ¥1,900
<b>図説 LD児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導</b> 重度・中・軽度障害児のために <障害児教育指導技術収録>	竹田 契一 日本文化科学社	1997/11 ¥2,800
<b>入門 新・感覚統合法の理論と実践</b>	坂本 龍生・花熊 晃 学習研究社	1997/10 ¥1,800
<b>&lt;親などの手記&gt;</b>		
<b>ありのままで</b> 大のガン先をこえLDの息子とともに	五十嵐めぐみ 教育資料出版会	2000/02 ¥1,500
<b>ADHDの恭平くん</b>	上田 淑子 本の時遊社	2000/04 ¥1,600
<b>飛び立つ</b> LD(学習障害)児の学校を拠いて	見晴台学園 かもがわ出版	1996/02 ¥1,800
<b>ボク学校きらいだもん</b> 学習障害児を育てた母の記録	筒井 やよい 同時代社	1987/04 ¥1,300
<b>ばくたちだって輝いて生きたい</b> 理解されにくいLD・親の手記	全国LD(学習障害)児・親の会 青木書店	1994/05 ¥1,575
<b>ばくもクレヨンしんちゃん</b> LDの息子とともに歩んだ12年	上野 景子・上野 健一 教育史料出版会	1999/03 ¥1,500
<b>LD(学習障害)の子どもたち</b> 子どものためのパワフルーブック <障害を知る本 8>	輪沢 潤子 大月書店	1998/11 ¥1,800
<b>学習障害児と家族のために 第二部子どもたちへ</b> みんなのNBD	R.A.ガードナー 海鳴社	1990/01 ¥1,200
<b>学習の障害がある人たち</b> <障害を理解しよう 3>	M. フリン／P. プリン 小峰書店	1999/05 ¥2,500
<b>きみならどうする</b> LDのためのソーシャルスキル	上野 一彦 日本文化科学社	1991/07 ¥2,000

## 6. LD関係の主なウェブサイト

下記のサイトは参考のため掲載しております。団体、機関等の利用については、自己の責任に基づき判断されるようお願いします。

### 親の会

全国LD(学習障害)親の会	<a href="http://www.normanet.ne.jp/~zenkokld/">http://www.normanet.ne.jp/~zenkokld/</a>
岩手LD児・者を守る親の会「なずなの会」	<a href="http://www.members.tripod.co.jp/lhnazuna/">http://www.members.tripod.co.jp/lhnazuna/</a>
茨城県学習障害児・者親の会「星の子」	<a href="http://www1.accsnet.ne.jp/~yoshida/test.html">http://www1.accsnet.ne.jp/~yoshida/test.html</a>
千葉LD児・者親の会「コスモ」	<a href="http://www.cosmo.homeip.net/">http://www.cosmo.homeip.net/</a>
LD親の会「けやき」	<a href="http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/">http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/</a>
LD児・者を考える会「くじら」	<a href="http://member.nifty.ne.jp/LD/">http://member.nifty.ne.jp/LD/</a>
石川県学習障害児親の会「PA L」	<a href="http://www.geocities.co.jp/NeverLand/1880/pal.html">http://www.geocities.co.jp/NeverLand/1880/pal.html</a>
大阪LD(学習障害)親の会「おたふく会」	<a href="http://www.normanet.ne.jp/~otahuku/">http://www.normanet.ne.jp/~otahuku/</a>
兵庫県学習障害(LD)児・者親の会「たつの子」	<a href="http://www.sanyonet.ne.jp/~tatunoko/">http://www.sanyonet.ne.jp/~tatunoko/</a>
広島LD児・者親の会「明日葉」	<a href="http://www.urban.ne.jp/home/angelica/">http://www.urban.ne.jp/home/angelica/</a>
山口県学習障害児・者親の会「まっべの会」	<a href="http://www.tiki.ne.jp/~matushita/">http://www.tiki.ne.jp/~matushita/</a>
えひめLD親の会	<a href="http://www.lib-e-catv.ne.jp/monta/">http://www.lib-e-catv.ne.jp/monta/</a>
鹿児島県LDを考える会「てんがらもん」	<a href="http://www.minc.ne.jp/~ryoubou/tengara1.htm">http://www.minc.ne.jp/~ryoubou/tengara1.htm</a>

### 行政機関・研究所・学会等

文部科学省	<a href="http://www.mext.go.jp/">http://www.mext.go.jp/</a>
国立特殊教育総合研究所	<a href="http://www.nise.go.jp/">http://www.nise.go.jp/</a>
障害者職業総合センター	<a href="http://www.nivr.jaed.or.jp/">http://www.nivr.jaed.or.jp/</a>
日本LD学会	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/</a>

### 障害者団体・研究会・療育機関・その他

日本障害者協議会	<a href="http://www.jdnet.gr.jp/index_ja.html">http://www.jdnet.gr.jp/index_ja.html</a>
日本知的障害者福祉連盟	<a href="http://plaza6.mbn.or.jp/~jlmr/">http://plaza6.mbn.or.jp/~jlmr/</a>
神奈川学習障害教育研究協会(神奈川LD協会)	<a href="http://www.246.ne.jp/~kanald/">http://www.246.ne.jp/~kanald/</a>
ADHD研究会	<a href="http://www09.u-page.so-net.ne.jp/zg7/adhd/">http://www09.u-page.so-net.ne.jp/zg7/adhd/</a>
えじそんくらぶ(ADHD関係)	<a href="http://www.e-club.gr.jp/">http://www.e-club.gr.jp/</a>
西宮YMCA-こんな子いるかな?	<a href="http://www.kobeymca.or.jp/ns/ld/ld1.html">http://www.kobeymca.or.jp/ns/ld/ld1.html</a>
星槎国際高等学校	<a href="http://www.seisa.ed.jp/">http://www.seisa.ed.jp/</a>
見晴台学園 中等部	<a href="http://www.asahi-net.or.jp/~AT6K-NGYS/miharashi.html">http://www.asahi-net.or.jp/~AT6K-NGYS/miharashi.html</a>
宮澤学園 中等部	<a href="http://www.miyanawagakuen.ed.jp/chu/h1.htm">http://www.miyanawagakuen.ed.jp/chu/h1.htm</a>
あんくるトムの部屋	<a href="http://www.ainet.ne.jp/uncletom/">http://www.ainet.ne.jp/uncletom/</a>
LD STATION	<a href="http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yamaokash/">http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yamaokash/</a>
風のたより(ニュースレター)	<a href="http://homepage1.nifty.com/kaze_no_taylor/">http://homepage1.nifty.com/kaze_no_taylor/</a>

## 執筆

上野 一彦 東京学芸大学教授・副学長、日本LD学会会長（第1章）  
西岡 有香 西宮YMC A・LD教室主任講師（第2章）  
緒方 明子 明治学院大学助教授・日本LD学会理事（第3章）

## 編集

全国LD（学習障害）親の会

### 編集委員

山岡 修

石井 節子 井上 芳郎 梶原 陽子  
清野 益美 富吉 裕子 橋本 紀美子  
幅崎 功 二口 雅子 藤本 健  
森田 厚美 矢作 裕子 米城 一政

## 表紙デザイン・イラスト

壱岐デザイン企画室

## LDってなんだろう

－学習障害理解の手引－

発行日：2001年3月31日

発 行：全国LD（学習障害）親の会

〒152-0001 東京都目黒区中央町2-18-11-301山岡方

E-mail : CZT02757@nifty.ne.jp

## 社会福祉・医療事業団（子育て支援基金）助成（事業）

この冊子は、社会福祉・医療事業団の助成により発刊したものです。



LDってなんだろう

—学習障害理解の手引—

社会福祉・医療事業団（子育て支援基金）助成（事業）  
この冊子は、社会福祉・医療事業団の助成により発刊したものです。